

国土交通省説明会

成田空港の運用変更を説明



B滑走路に着陸する航空機

同時離着陸方式を導入

9月16日、成田国際空港の運用の変更について、国土交通省から説明がありました。

成田空港の容量拡大に向けた取組みは、2014年冬を目途に発着回数30万回を目指しており、本年10月よりA滑走路、B滑走路の同時離着陸ができるように準備を進めているとのことでした。導入にあたっては、航空機を監視する要員を配置し、安全確保を強化することで、それぞれの滑走路を独立して運用することができ、離発着の回数を増やしていくことを可能にするものです。

また、国内線への乗り継ぎを強化するため、10月から旭川に1日2便、新千歳に1日1便の就航が始まり、順次福岡、那覇などの就航が予定されているそうです。さらに、成田空港を拠点とするLCC（格安航空会社）の参入を推進していくとのことでした。



説明する（左から）国土交通省の加藤室長、松本専門官ら

文教・厚生委員会

病院・3保育所を視察



築32年の東保育所を視察

9月12日、文教・厚生委員会は、6月の学校訪問に引き続き関連施設の視察訪問をしました。

多古中央病院では、空調熱源改修工事現場を視察しました。本館の空調は重油による冷温水で行っていましたが、老朽化しており、また環境に配慮して電気式のものに改修するとの説明がありました。

その他、町内の3保育所を訪問し、園児数や保育の現状について説明を聞きました。中央保育所で行われている子育て支援「たこ・こどもルーム」への希望者が増えており、空き教室の確保や人数の制限など苦慮しているとのことでした。また、全保育所では、年度の途中から入所してくる乳幼児や一時保育の園児などに対応し、子どもに合わせた保育を行うことの大変さを伺いました。

また、学童保育所の現状説明を聞きました。放課後や長期休業時の家庭にかわる場として、多古・久賀学童保育所あわせて50名程度の児童が利用しているとのことでした。

香取郡市町議会議長会研修

おぶせ 小布施のセーラさんが講演



酒造の半纏を羽織り講演するセーラ・マリ・カミングス氏

8月25日、香取郡市町議会議長会主催の議員研修大会が神崎町のふれあいプラザで開催され、議員全員（写真左下）が出席しました。多古町・東庄町・神崎町・香取市から64名の議員が参加して行われ、議員在職7年以上の2名（東庄町）の方には自治功労者表彰がありました。

研修では、米国生まれのセーラ・マリ・カミングスさん（長野県小布施町、柗一酒造場代表取締役）から「伝統文化を生かした町づくり」と題して、講演がありました。異国で、その地方の伝統文化を見直し、困難を逆手にとり前向きな思考と「国際北斎会議」「小布施セッション文化サロン」「小布施見にマラソン」など、斬新な仕掛けと運営で酒蔵の再興を成功させ、さらに、町づくりへと発展させた、実践に基づく講演でした。

地元の人々以上の郷土愛と流暢な日本語から発せられる洗練された発信力、そして、並みはずれた行動力に町づくりのヒントの一つをみせられた研修でした。



県町村議会議長会

初の政務研究会を開催

9月20日、県自治会館で県町村議会議長会初の政務研究会が開催されました。

研究会では、「全国に広がる地方議会改革」と題して東京財団研究会の中尾修氏（前北海道栗山町議会事務局長）から全国初の議会基本条例づくりの実践を基にした講演がありました。二元代表制のもとでの議会力のあり方など有意義な講演を受けて、県内町村議長と活発な質疑や意見交換がなされました。



政務研究会に臨む加瀬議長ら

成田空港周辺市町議会連絡協議会

環境、共生共栄、安全を求め決議

10月17日、空港周辺の4市5町の議会代表が集まり、協議会総会が開催されました。総会では、役員改選が行われ、会長に猪狩富里市議長、副会長に加瀬多古町議長などを選出後、空港周辺地域の環境対策、共生共栄等の充実、安全対策に関して、3つの決議が全会一致で承認され、国土交通省、千葉県、成田国際空港(株)、空港周辺の各警察署へ提出することで承認されました。



副会長の加瀬議長（中央）、会員の菅澤昌則議員（右）と石渡議員

※4市5町（成田市・富里市・山武市・香取市・多古町・芝山町・神崎町・横芝光町・栄町）